

令和7年度

分掌・学年・教科の
成果と課題



秋田県立六郷高等学校

目次

○各分掌

| | | | |
|---|-------|----------|------|
| 1 | 総務部 | ・・・・・・・・ | P. 1 |
| 2 | 生徒指導部 | ・・・・・・・・ | P. 2 |
| 3 | 教務部 | ・・・・・・・・ | P. 3 |
| 4 | 特別活動部 | ・・・・・・・・ | P. 4 |
| 5 | 進路指導部 | ・・・・・・・・ | P. 5 |
| 6 | 保健安全部 | ・・・・・・・・ | P. 6 |
| 7 | 研修部 | ・・・・・・・・ | P. 7 |
| 8 | 教育情報部 | ・・・・・・・・ | P. 8 |

○各学年

| | | | | |
|---|----|---|----------|-------|
| 1 | 1年 | 部 | ・・・・・・・・ | P. 9 |
| 2 | 2年 | 部 | ・・・・・・・・ | P. 10 |
| 3 | 3年 | 部 | ・・・・・・・・ | P. 11 |

○各教科

| | | | |
|----|-------|----------|-------|
| 1 | 国語科 | ・・・・・・・・ | P. 12 |
| 2 | 地歴公民科 | ・・・・・・・・ | P. 13 |
| 3 | 数学科 | ・・・・・・・・ | P. 14 |
| 4 | 理科 | ・・・・・・・・ | P. 15 |
| 5 | 保健体育科 | ・・・・・・・・ | P. 16 |
| 6 | 芸術科 | ・・・・・・・・ | P. 17 |
| 7 | 英語科 | ・・・・・・・・ | P. 18 |
| 8 | 家庭科 | ・・・・・・・・ | P. 19 |
| 9 | 情報科 | ・・・・・・・・ | P. 20 |
| 10 | 商業科 | ・・・・・・・・ | P. 21 |
| 11 | 福祉科 | ・・・・・・・・ | P. 22 |

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 生徒指導部

1 本年度の重点目標

- | |
|---|
| (1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 事故及び問題行動の未然防止 (3) 規範意識の高揚と豊かな心の育成 |
|---|

2 目標達成のための具体的方策

- | |
|---|
| (1) 基本的な生活習慣の確立 ① 挨拶の励行 ② 端正な整容の維持 (2) 事故及び問題行動の未然防止 ① 校内外における問題傾向生徒の早期発見・早期指導 ② 保護者及び地域諸機関との連絡強化 ③ 問題を抱える生徒の個別指導の徹底 (3) 規範意識の高揚と豊かな心の育成 ① マナー向上とルールを守らせる指導 ② 職員の共通理解による指導の徹底 ③ 研修の充実 |
|---|

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ソックスの色について服装規程を見直し、4月から施行したが、生徒や各家庭の理解を得ることができた。 ・大半の生徒は遅刻することなく朝のSHRに参加しているが、一部で常習的に遅刻をしている生徒がいる。学年・個別に指導はしているものの改善が見られなかった。 | B |
| <ul style="list-style-type: none"> ・各学年部との連携により、問題行動に対して迅速に対応することができ、その後の継続的な指導もできている。 ・支援委員会をはじめ他分掌との連携がなされ、生徒情報の共有や個別指導ができた。 | A |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の生徒指導案件の大半が人間関係のトラブルであり、その中でもSNSに関わるものが多かった。情報モラル教室等を実施してはいるものの、一部ではあるが生徒に響いていないように感じられる。各行事の実施の仕方から考え直し、生徒の心に響くやり方を検討していきたい。 ・教職員間の共通理解は概ね図られているが、意識の低い一部生徒への指導について具体的な手立の計画などの再確認が必要である。 | B |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・マナーや常識・規則などの規範意識を高めさせるために、道徳教育との連携方法について模索する。 |
|--|

5 その他、要望等

| |
|------|
| 特になし |
|------|

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 教 務 部

1 本年度の重点目標

- (1) 本校に即した教育課程を設定する。
 (2) 校務支援システムを利用し、確実な成績処理、出欠管理を行う。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 普通科コースの再検討と本校ならではの教育課程を検討する。
 (2) 校務支援システムを運用することを前提にした内規に改定する。成績の処理等をしやすくなるようなやり方の指示を教育情報部と連携し、発信していく。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|--|----|
| (1) 令和7年度入学生から普通科の定員減に合わせてのコース制の変更を行った。福祉科1クラス、普通科1クラスの計2クラスの教育課程として現実的なものができあがっていると考えている。 | B |
| (2) 考査の実施から成績処理までのマニュアルを完成させ、さらに1回改訂を行った。校務支援システムにも全職員が少しずつ慣れてきている。デジタル採点システムに必ず取り組むことを決め、高校入試でのデジタル採点実施への布石とすることができた。 | B |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・さらに教育課程について検討していく。
- ・デジタル採点システムの活用を広げる。
- ・校務支援システムへの確実な出欠入力を促す。

5 その他、要望等

特になし。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 _____ 特別活動 部

1 本年度の重点目標

- (1) 生徒会執行部を中心に学校行事の主体的な運営を支援する。
 (2) 部活動の加入を促進し、活動環境を整え、活性化を図る。
 (3) 各委員会の自主的な活動を積極的に行う。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) ①生徒会執行部を中心に朝の挨拶運動や校内での挨拶を励行する。
 ②生徒会執行部の発行する「SCHOOL NOW」を通じて、日常生活や学校行事などを各自が振り返る機会とする。
 ③校外で行われる交流事業・各種会合への積極的な参加を促す。
 (2) ①1年生への部活動紹介や体験入部など、既存の活動をより精度を高めて実践し、加入促進に繋げる。
 (3) ①文化的行事・体育的行事とも各委員会を中心に計画・実践し、生徒が活動を通して達成感を味わえるよう配慮する。

3 今年度の取組における成果と課題

- A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| 校門での挨拶運動は実施できなかったが、校内において生徒会執行部が先頭に立って挨拶を励行した。「SCHOOL NOW」は、多くの学校行事が行われ、予定通りに発行することができた。CSにおいても地域の方々と積極的に意見交換をし、交流することができた。 | B |
| 学校説明会や入学式など各部の活動動画を配信し、入学当初の部活動加入率は昨年を大きく上回った。特に運動部への加入率が高かった。しかし、その後の退部者も多く見られたのが残念であった。 | B |
| 今年の学校祭も一般公開を二部制で開催した。昨年の反省を生かし、食品販売の数を増やし、対応した。今年で二回目の黒板アートはどのクラスも良い出来栄で、コンクールは接戦であった。また、ステージ発表やクラスデコなど各クラスとも持ち味を發揮できた内容で、たくさんの来場者を迎えることができた。クラスマッチは、大きな怪我やトラブルもなく、終えることができて良かった。また、運動会では天候にも恵まれ、大いに盛り上がり終ることができた。各行事とも生徒会を中心に、委員会や部活動の部員達に協力してもらい、全てを終了することができた。感謝したい。 | A |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

学校行事もクラス数や生徒数減少に伴い、創意工夫していく必要がある。また部活動加入率も上げていきたい。特に女子生徒の加入率が上がるような工夫をしていきたい。

5 その他、要望等

学校SNSの同好会参入

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 進路指導部

1 本年度の重点目標

- (1) 正しい職業観・人生観の育成するため、学ぶこと、働くことの意義の理解に務める。
 (2) 多様な進路希望を実現に向け、適切な資料や情報を提供する。
 (3) 個々に対応したきめ細かな進路指導のため、保護者・地域の人材を活用する。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) ①進路ガイダンス、進路講話、合格体験発表等の実施。
 ②職場見学、インターンシップ、社会人講話、キャリアパスポート等の実施。
 (2) ①面接、調査等による個々の進路希望の把握。
 ②進路情報(就職・進学)の早期提示と「進路の手引き」の活用。
 ③面接指導、模擬試験、補習、添削等の計画的実施。
 (3) ①三者面談、地域の人材等の活用。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| ・各学年の発達段階に合わせ、職場見学、インターンシップ、卒業生講話、合格体験発表会等の取組を行った。 | B |
| ・進路希望調査、担任面談だけでなく、レディネステストを実施することで生徒の職業観を検討しながら進路選択をさせることができた。 ・公務員希望者に向けた添削指導を行い、進路決定につながった。 | A |
| ・三者面談を各学年とも行い、家庭と綿密に連携をとりながら進路指導を行った。 ・地域の企業の方々から模擬面接指導や進路行事等で協力を得られた。 ・就職支援員と連携を密にし、新規企業の開拓ができた。 | A |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・生徒自身の職業観を知る場面を設定し、職業を選択するための材料とする。
 ・公務員対策の充実を図る。

5 その他、要望等

特になし。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 保健安全 部

1 本年度の重点目標

- (1) 保健関係機関や家庭との連携を図り、生徒の健康の保持・増進に努める。
 (2) 規律ある生活習慣の確立と自己管理能力の育成を目指す。
 (3) 心身の健康教育と教育相談の充実に努める。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 健康診断の結果を速やかに通知し、検査・治療が必要な生徒には多方面から継続的に指導を行う。
 (2) 保健だよりや保健委員会活動、保健講話等を通じて、健康管理や食事の重要性、命の大切さに気づかせ、実践できるようにする。
 (3) 心理アンケートの活用、Google formsを用いた「ここ×からチェック」を定期的に実施して、生徒の自己理解を促すとともに、教育相談やカウンセリングに繋げ、心身の健康問題の早期発見・早期対応に努める。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| (1) 各健康診断後、受診結果を速やかに通知したが、最も要精検者の多い視力検査の受診率は15.5%と、前年度を20%下回った。 | B |
| (2) 医師とがん経験者を講師に招き「がん教室」を実施できた。自他の健康と命の大切さを学ぶ有意義な機会になったと思われる。クラスマッチや運動会の際、保健員会で怪我予防・熱中症予防の呼びかけや暑さ指数の計測、氷やうちわの設置を行った。全校生徒の協力もあり、大きな怪我や事故なく行事を終えることができた。 | A |
| (3) 学年部の協力を得て、心理アンケート「きらり」と「ここ×からチェック」を予定どおり実施することができた。回答が気になる生徒にカウンセリングや教育相談を実施し、生徒の自己理解を促すとともに、心身の健康問題の早期対応に繋げることができた。「ここ×からチェック」の質問内容を見直し、基本的な生活習慣に関する項目を加えて生活の自立に向けた意識の高揚を目指したが、改善までには至らなかった。 | B |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

「SOSの出し方講座」など心の健康維持について考える講話や薬物乱用防止教室の実施の仕方を検討し、3年間で系統的な健康教育の実施を目指したい。

5 その他、要望等

授業中の可能な限りの常時換気の励行と、加湿空気清浄機の使用をお願いしたい。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 _____ 教育情報 部

1 本年度の重点目標

- (1)校務支援システムが円滑に活用できるよう、環境を整備する
 (2) I C T環境を整備し、生徒・職員がスムーズに情報を取得できる環境を提供する
 (3)学校行事や生徒の活動の様子を素早く地域に発信する
 (4)令和8年度の個人端末の持ち込みについての方向性を示す

2 目標達成のための具体的方策

- (1)研修を行い操作について理解を深める。マニュアルを作成し全職員で共有を図る
 (2)ネットワークが安定するように設備の調整を行う
 (3)各分掌や部活動、教科等に更新を依頼し、協力しながら情報を発信する
 (4)令和7年度入学生に対して、アンケートなどを実施し端末の持ち込みについての具体的な方針を定める。

3 今年度の取組における成果と課題

- A：具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|--|----|
| (1)特別時間割や出欠管理など情報部員を中心に、各担当先生方に操作を伝達することができていて大きな混乱はなかった。また、百問繚乱にも多くの先生方が取り組んでいた。 | B |
| (2)ネットワークの不具合報告は減少したが、P C更新やH D Dの故障についての報告が多かった。Win11への移行もスムーズに行うことができたが、機器自体の老朽化により、十分な改善が難しい場面も増えてきている。 | B |
| (3)各分掌の担当がH Pの更新を行ったことで更新がスムーズであった。昨年以上に「すぐーる」を活用できていたことで保護者に素早く連絡することができた。 | B |
| (4)新入学生に対する方向性はある程度まとめることができた。 | B |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1)校務支援システムが安定するように関係職員と共有を図り、全職員が操作をスムーズにできるように手順を明確化する。
 (2)令和8年度から始まるB Y O Dは混乱もあると思うが、方向性をしっかり示し全体で協力しながら進めていきたい。
 (3)H Pは引き続き素早い情報発信を心がける。C l o u d内の動画、画像で容量が逼迫しているので定期的な整理をする。
 (4)職員室のネットワークが安定するようにケーブルなども少しずつ整備する。

5 その他、要望等

特になし。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 1 年 部

1 本年度の重点目標

- (1) 基本的な生活習慣を確立させ、ルールやマナーを守る態度を養う。
 (2) 自己理解と他者理解を深め、人間関係を構築する能力を養う。
 (3) 学習の意義を理解し、自発的に学習に取り組む態度を養う。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 職員全員で協力しながら生徒への指導を多面的、重層的におこない、ルールや指導の意味を理解し行動できる生徒の育成を目指す。
 (2) 総合的学習の時間の活動等で、地域社会に関する学びや奉仕活動を積極的に行うことで、主体的な学びと協働できる力を育成する。
 (3) 「学びなおし」や進路ガイダンス等とおして、学習に誠実に向かう姿勢を養う。
 (4) 挨拶や言葉遣いの指導を徹底し、互いを理解・尊重し、人間性や関係性を育成しながら、基本的な生活習慣の確立を促す。
 (5) 面談やカウンセリング、健康管理指導に加え、特別なニーズに十分に配慮しながら、生徒が安心安全に生活し授業に集中できる支援活動を充実させる。

3 今年度の取組における成果と課題

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| (1) 職員全員で協力し生徒を指導することができた。学年集会での呼びかけの他、学年行事（なべっこレクリエーション等）を企画し、楽しみながらルールを理解できるよう取り組んだ。個人面談を定期的に行い、保護者の協力も得ながら指導したが、理解が不十分な点もあるため継続指導が必要である。 | B |
| (2) 「町歩き」を実施し、グループで美郷町に関する調査・研究を行った。研究発表をおして、主体的な学びと協働できる力を身につけられるよう取り組んだ。 | B |
| (3) 朝学習を中心に、学び直しを含め、集中して学習に向かう姿勢の育成に努めた。進路ガイダンスや企業見学は、事前調査と事後の振り返りを行い、進路について真剣に考える姿勢を身につけられるよう図った。 | A |
| (4) 人間関係のトラブルにつながる言葉遣いについて、特にSNSの取り扱いを中心に指導した。授業への遅刻や授業中のトイレ等、状況を考えた行動ができない生徒には個別に声をかけ、基本的な生活習慣を確立できるように取り組んだ。 | B |
| (5) 問題や不安を抱えた生徒には複数の職員が連携しながら対応した。生徒には少しずつ成長が見られ、落ち着いた学校生活が送られるようになった。 | A |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・自分の言動を客観的な視点で認識できるよう、指導を継続したい。
- ・進路についてより具体的に考え、活動できるよう指導したい。
- ・学年全体での奉仕活動に取り組みたい。

5 その他、要望等

- ・後期から3階実施の授業で電子黒板が使用しにくくなった。使用教室も含め時間割を検討してほしい。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 2年部

1 本年度の重点目標

- (1) 進路実現に向けて、個々の進路希望と学力に応じた学習に自主的に取り組めるようにし、自らの進路への意識付けをさせる。
- (2) 整容や基本的な生活習慣を徹底させ、社会人としてのマナーや礼儀を身につけさせる。
- (3) よりよい人間関係を構築する力を高めるための工夫をする。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 進路希望を早い段階で明確にし、進路実現のために必要なことを自覚させる。学習に関してはICTを効果的に活用し、一人一人が主体的に学習に取り組ませ、学力の向上ならびに定着を図る。
- (2) 基本的な生活習慣を徹底させ、正しい言葉遣いや挨拶ができるように声かけをしながら、社会人としてのマナーや礼儀を身につけさせる。
- (3) SNSの正しい使い方を身につけさせるなど、互いを思いやり、理解・尊重し合える人間性や関係性を育てる。生徒の特性をしっかりと把握し必要に応じて面談やカウンセリング、健康管理指導等によって、心身両面で健康な生徒を育てる。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
- B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
- C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| 進路ガイダンスや進路ディスカッション、インターンシップを通して進路に対する意識が高まりつつあるが、まだまだ幼い行動、言動が目につき、自覚までは到達していない。学習面ではスタサプの学び直しの効果によって、学習力は少しずつ高まってはきたが、主体的に取り組む姿勢の定着とまではいっていない。ここが課題である。 | B |
| 遅刻者なしと身だしなみの徹底ができなかった。社会に通用するマナーやルールをもっと徹底させたい。進路実現に向けて基本的な生活習慣の大切さを重視させたい。また、今後もしっかりと指導していきたい。 | B |
| 年度当初はぎくしゃくした人間関係のトラブルなどが見られたが、インターンシップや学校祭、修学旅行等を通じて、自主的・計画的に実践し、より良い関係性を築くことに結びついた。また、皆勤者は減ったものの、心身ともにたくましさは増した。 | B |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

生徒の個別な情報を進路指導部と確実に共有し、希望する進路実現に向けて指導していきたい。

5 その他、要望等

| |
|--|
| |
|--|

令和 7 年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 3 年 部

1 本年度の重点目標

- (1) 進路実現に向けて、見通しをもって考え、学習や行動ができるようにする。
 (2) 自立した社会人となれるよう、基本的マナーや良識とコミュニケーション能力を身につけさせる。
 (3) 最終学年としての自覚を持ち、学校を中心となって活躍できる人材を育てる。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 適切な時期に適切な進路情報を提供すると共に、その達成に向けて主体的な学習態度を身につけさせる。また、基礎学力を身につけさせるためスタディサプリアを活用し、成績向上につなげる。
 (2) 社会に出てから必要になる基本的な生活習慣を身につけるさせるため時間厳守や提出物の期限厳守を徹底させる。言葉遣いや整容指導を行い、社会人としての礼儀やコミュニケーション能力を身につけさせる。
 (3) 学校行事や部活動において、主体的に活動できる場面を設定し、3年間の集大成を図り、全力で取り組ませる。上級生としての模範となるような機会を設け、学校全体の意識向上を図る。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|--|----|
| (1) 進路については、早い段階から準備をして取り組むことができた。スタディサプリアを朝学習だけでなく活用し、生徒個人が地道に取り組むことで成績の向上の一助となった。 | A |
| (2) 基本的マナーや整容について、3年間を通して指導してきた成果が見えた。コミュニケーション能力では積極的になれない生徒もいるものの、全体を通して身につけていると感じる。 | A |
| (3) クラスマッチを始めとして、笹竹祭や運動会など最高学年として主体的に取り組む、成功に結びつけることができた。 | B |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・ 公務員志望の生徒への対応が必要だと感じる。
- ・ 生徒の能力、適性を考えた進路選択を保護者とさらに連携して進めていく。

5 その他、要望等

- ・ 就職支援員との連携がスムーズでとてもよかった。今後も継続してもらいたい。

令和 7 年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 国 語 科

1 本年度の重点目標

- (1) 授業や週末課題を通して基礎学力の定着を図る。
 (2) 文章を的確に理解し、自分の言葉で適切に表現できる能力を身につけさせる。

2 目標達成のための具体的方策

- ・教科書や副教材等を活用し、基礎的な漢字の読み書きや慣用句の使い方など基礎的な国語の知識の定着を図る。
- ・「電子黒板」や「タブレット端末」等、ICT機器を効果的に活用する。
- ・作文や小論文を書く機会を設定し、基本的な知識の習得や書く能力を高めさせる。
- ・授業課題や週末課題で学習習慣をつけさせる。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| (1) 定期的な漢字テストの実施やスタディサプリの課題配信で、学習内容の定着を促すことができた。また、副教材を活用し、慣用句、ことわざなどの意味や使い方などの学習を重点的に行うことができた。 | B |
| (2) 教科書の題材に関連する内容を便覧やタブレット端末等で確認することにより具体的なイメージを持たせ理解を深めさせることができた。また、グループワークを取り入れながら、意見文や感想文などを書かせ表現する機会を適宜設けることができた。 | B |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 基礎学力を定着させるとともに、学習の意義を理解させながら漢字や語彙力、読解力など、卒業後を見据えた国語の力を身に付けるために粘り強く取り組ませる。
 (2) 文章を書いたり、発表したりするなど自分の意見や考えを表現する機会を増やし、他の生徒と共有することでお互いを高め合う活動を取り入れる。

5 その他、要望等

特になし。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 地歴公民科

1 本年度の重点目標

- (1) 資料を活用し、課題を解決できる力を身に付けさせる。
 (2) 授業を通して、社会人としての基礎学力・教養を身に付けさせる。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 地図や統計、画像などの諸資料などから読み取ることができ、自分の言葉で表現ができるようにする。
 (2) 授業で利用するプリントや課題をしっかりとめさせ、基本的な事柄や知識を身につけさせる。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|--|----|
| <ul style="list-style-type: none"> 調べ学習を実施し、インターネットや様々な資料を活用し、必要な情報を取捨選択できる力を養うことができた。しかし、限られた時数の中で、まとめの発表を行う機会が少なかった。 | B |
| <ul style="list-style-type: none"> 小テストや授業プリントを通して反復させながら学習し、基礎・基本が定着した。 授業の内容や板書をノートに正しい漢字でまとめさせ、書いて覚える学習方法への切り替え指導が定着してきた。 | A |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・今年度の教育課程研究協議会で話題になった年間指導計画について、組み立て方を根本的に見直し、扱っていく内容とそうでない内容を精査して、自分の意見や考え方などを表現する機会を効果的に設定する。

5 その他、要望等

特になし

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 数 学 科

1 本年度の重点目標

- (1) 基礎、基本的な計算問題を反復することで、定着を図る。ICTを活用し、視覚的に分かる授業を目指す。また、発展的、応用的な内容にも取り組ませ、幅広い進路希望に対応できるようにする。
- (2) 多様な特性を持つ生徒へ対応するため、授業の在り方を工夫する。評価についても、総合的に判断できるようにする。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 毎時間、短時間でも基礎、基本的な問題を反復させることで基礎計算の定着を図る。授業の内容が分かるようなスライドを作成するなど、生徒が主体的に振り返りができるようにICTを活用する。
- (2) 困っている生徒に対して、素早く対応しながら授業を進める。また、スタサプを活用し、生徒の進路希望に合った課題を提供する。評価については、学習成績だけでなく主体的に取り組んでいるかどうかを評価の対象とし、総合的に判断する。

3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| (1) 授業だけでなく長期休業課題でも基礎、基本問題を徹底して取り組ませた。定着をするところまで至っていないため、より丁寧な指導が必要と感じる。数学を学習するためのICT活用について具体的な取組を考えたい。 | B |
| (2) 配慮が必要な生徒に対して、これまで以上に丁寧な指導を行った。小学校段階でつまづいている生徒の指導、評価について今後は検討していく必要がある。 | B |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・ 配慮が必要な生徒について、定期考査以外での評価の在り方を模索する。
- ・ 生徒がタブレットをどのように活用するのかを検討する。

5 その他、要望等

特になし

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 理 科

1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的な学力を定着させる。
 (2) 自然科学に興味をもたせるために生活に関連づけた内容にするなどの工夫をする。
 (3) 生徒の防災・減災意識を高める。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 基礎的・基本的な内容に関しては、身近な例について調べさせたり、考えさせたりすることで定着率を高める。
 (2) 生徒が興味を抱くように授業の軸となる発問を研究する。生徒が探究的な行動の中で自ら考え、表現し、自分の考えと仲間の考えを共有できる授業を工夫する。
 (3) 過去や現在の災害について学び、日常または被災時にとるべき行動を考えさせる。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| (1) 確認テストを平常時や考査前に実施し、基本的知識の定着を図った。合格ラインに達しない生徒への指導を強化した。 | B |
| (2) 学んだり、自ら調べたりして得た知識を使ったり、広めたりする場面を多く設定した。このことが知識の定着へと繋がっているが、本校生では試行的な活動を苦手している生徒が多く、この部分への指導が課題となっている。 | B |
| (3) 実際に起きた災害を教材として扱い、他人事にならないように考えさせることができた。 | A |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

数的処理を不得手とする生徒に対して、学ぶ意欲を維持させられるような発問や取り組みを検討していきたい。

5 その他、要望等

不要な薬品の処分行っていただきたい。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 保健体育 科

1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的事項の徹底を図り、健康で安全な生活に留意させる。
 (2) 生涯にわたって運動に親しむ姿勢を定着させ、健康で安全な生活を送ることができる技能と知識を育てる。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 集団行動などを通して、周囲を考慮しながら行動し、しっかりとした態度を身に付ける。
 (2) 基礎的、基本的な運動能力の更なる向上を目指し、反復練習に励む。
 (3) ゲームなどでの的確なアドバイスや指示ができるようにルールなども把握する。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| <p>全クラスに集団行動を実施したが、集団行動の意義や重要性を指導することは出来たが、各クラスの発表をするところまでできなかったことが残念である。挨拶後の準備運動や補強、ストレッチなどはしっかり徹底でき、怪我防止に努めることができた。</p> | B |
| <p>個々の運動能力には大きな差があるが、能力別にグループ分けをしたり、動画撮影やクラスルームを使うなど、ICTを活用することができて良かった。球技などでは飽きさせないために、また、動きが苦手な生徒のために楽しくやれる工夫やルール変更など、的確なアドバイスをすることができた。しかしながら、新体力テスト結果をみる限り、運動能力は低いままであった。</p> | B |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

年間指導計画の見直しと暑さ・寒さ対策、そして怪我防止の徹底を図りたい。

5 その他、要望等

特になし。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 芸術科

1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的な音楽の知識・技能の定着を図る。
 (2) 主体的に学習に取り組もうとする態度を育成し、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 歌唱・器楽・鑑賞の諸活動を通じて様々な種類の楽譜を読み取ることで、感受した音楽の諸要素を知識に結びつけ、演奏実践を通じて読譜力を向上させる。
 (2) 各自の興味関心や習熟度に応じて課題を選択させるなど、ICTを活用した学習を効果的に取り入れ、効果的な教材の与え方を工夫するとともに、芸術・文化が日常生活に繋がっていることを理解できるように他分野と関連付けた授業の展開を工夫する。

3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| ・歌唱では、校歌・県民歌の歌詞内容理解と日本の同様中心に音楽用語を覚えることにも挑戦した。器楽では、生活の身近な素材をリズム化し、アンサンブルを行った。特にCUPSでは2個用いて奏法を発展させて学習できた。歌唱、楽器表現を躊躇してしまう生徒については、実態に合った難易度の曲を提示して音楽活動を楽しめるようにした。 | A |
| ・ICTを用いた作曲活動を行った。楽譜の読めない生徒も、ICTを活用することで、楽しみながら創作活動を行うことが出来ていた。ワークシートもフォームを用いてみたが、楽譜の読み取りや音楽記号の記入等については、紙に直接記入する方が良かった。 | B |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

ICTとアナログの良さを活用しながら、様々なジャンルの音楽に触れ、音楽を愛好する心を育てる指導をする。

5 その他、要望等

可能であれば、電子黒板と常時活動で使える楽器があると良い。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 英語科

1 本年度の重点目標

- (1) 新学習指導要領やCAN-DOリストを踏まえ、5領域（技能）の基礎の定着に向けた主体的、かつ対話的な学習の実践をさらに図る。
- (2) 外国語やその文化に対する興味や関心を伸ばすために、ALTのさらなる積極活用を図る。また、積極的に英語でコミュニケーションをする態度を育てる。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) シラバスやCAN-DOリストを活用しながら、生徒と職員による協働学習と生徒間同士の主体的、対話的学習を視野に入れて普段の授業を構成し、実践していく。
- (2) 英語を使わせるという意識に立ち、教材や諸活動の精選を図りながら授業を実践していく。また、ALTとのコミュニケーションをよく図り、よりよい授業実践により外国語や異文化への興味関心の醸成に努める。

3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|--|----|
| (1) 4技能5領域の伸長を考え、対話的、実践的な学習活動を概ね行うことができた。また、必要に応じてICTを利用しながら、主体的に学びの実践につなげることができた。但し、CAN-DOリストをこまめに活用しながら、学習活動を計画的に進めていくという点では課題が残る。 | B |
| (2) T. T. を通して、ALTを積極的に活用し、異文化だけではなく、片言でも英語を話してみよう、話してみたいという気持ちの醸成につなげることができた。 | A |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・各種英語検定対策 ・パフォーマンステストの改善

5 その他、要望等

特になし。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 家庭科

1 本年度の重点目標

- (1) 自立した生活者として必要な基礎的、基本的な知識・技術の定着を図る。
- (2) 協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする力を育む。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 自立した生活者として必要な知識・技能を定着させるために、生徒の実態を踏まえて学習内容を厳選し、計画的に学習を積み上げられるように工夫する。また、ICTを効果的に取り入れ、他者の意見や考えに触れながら、個人の考えを深められるような機会を設定する。
- (2) 家庭や地域の身近な生活に注目して、抱いた疑問や課題を解決したり、生活文化を継承したりしていくために必要なことは何かを考え、共に学び合う機会や、家庭や地域で実践する機会を設定する。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
- B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
- C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| (1) 自立した生活者として必要な知識や技能とは何かを生徒と共に考え、確認しながら学習活動を行うことができた。しかし、考えていたよりも基礎教養を習得するために時間がかかり、計画的に学習を積み上げることは十分ではなかった。 | B |
| (2) 今年度、専門科目「保育基礎」と普通科目「家庭総合」において、地域の保育施設での保育実習と園児交流会を実施することができた。体験的な学習や自分の学びを仲間と共有したり、協力して学び合う学習を通して、主体的に学び、家庭や地域で実践しようとする気持ちが高まってきている。また、ホームプロジェクト学習では身近な生活に注目して、抱いた疑問を解決したり、生活文化を継承したりしていくために必要なことは何かを考え、一人一人が問題解決的な学習に取り組むことができた。 | A |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 生徒の実態を踏まえて、自立した生活者に必要な基礎教養のために学習内容の厳選と年間計画を工夫する。
- (2) 体験的な学習や問題解決的な学習は学ぶ意欲を高め、生徒の実践的な力を高めているので継続して取り入れていきたい。家庭や地域での実践化に結びつけられるように授業内容を更に工夫したい。

5 その他、要望等

特になし。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 情報科

1 本年度の重点目標

- (1) 情報と情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、情報に関する科学的な見方・考え方を養う。
- (2) 情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、主体的に参画するための資質・能力を身に付けさせる。
- (3) タイピング能力の向上、プログラミングに関する知識の定着を図り、情報社会に参画する能力を身につける。

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 情報の収集と精選、活用等について、実習を通して身に付けさせる。
- (2) 情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度である「情報モラル」の様々な側面と情報化の影の部分に関する教材について、お互いの考えを共有できる場面を計画的に設定する。
- (3) タイピングソフトの活用、MicroBitコンテストに向けたアイデアを練るなどの学習で、実践力を養う機会を増やす。

3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| 情報の収集と精選、活用に関して、実習を通して取り組んだが、実践的な能力の習得まではできなかった。しかし、遊びや自分の興味あることなど、場面によっては活用できているのだが、授業や調べ学習などに対しては同様に活用することができない生徒が多い。 | B |
| 情報モラルに関する活動は多くの単元で取り入れながら、その都度話合いや考えを共有する場面を設定してきた。また昨年度より情報モラルのみの授業を4時間設け、より一層情報モラルの向上を目指したが、SNSなどの使い方などを見ると、話合いの際の考えと実生活での行動が一致できていない生徒も見受けられる。 | B |
| 昨年度に引き続き、タイピングスキルは大きく向上した。MicroBitコンテストに関してはグループで話合いアイデアを練ることができた。残念ながら今年度もアイデア部門で入賞することができなかったが、実践力を養う活動を昨年度以上に充実させることができた。 | A |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

情報の学習については、1年生のみならず、2年間に渡り、プログラミングの実践力の育成、情報モラルやセキュリティについて行う必要性を感じている。

共通テスト科目ではあるが、本校の生徒にとって1年で学ぶには時間が足りず、プログラミングを多く学習している。プログラミングの学習したことを地域の小学生親子などに還元することは地域貢献への意識の醸成と自信をもつことにつながるため、今後も継続していきたい。

5 その他、要望等

現在のタブレットとBYODのタブレットが今年度の1年生、もしくは来年度の1、2年生から導入されると思うのだが、校内でSNSやゲームなどをWIFIやその他環境によって制限できる方法があればしたほうが、授業の理解度・定着度、トラブル防止につながると予測される。

令和 7 年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 商 業 科

1 本年度の重点目標

- ・ビジネスの諸活動における知識と技術の習得を通して、経済社会の変化に柔軟に対応できる能力を養う。
- ・地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

2 目標達成のための具体的方策

- ・ビジネスに関する成功事例や改善を要する事例などを活用し、協働して課題の解決に取り組む学習活動や資格取得に挑戦させる。
- ・身近な事例を活用した教材を活用し、実践的な学習を充実させる。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| (1) 3年生の課題研究では、美郷町についての発表を行い、互いに意見を伝え合いながら評価し合う姿が見られ、主体的に取り組むことができた。一方、2年生ではケーススタディを取り入れた授業を行ったものの、自分の考えを表現する力など、主体的な力や基礎的な力を十分に身につけるところまでは到達しなかった。 | B |
| (2) 生徒の実態に応じて学習内容を選び取り、工夫を加えながら授業を進めた。ケーススタディなどにも取り組み、さまざまな意見に触れることができた。また、Google Meet を活用して板書の見せ方も工夫した。 | B |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・個々のつまずきに応じた指導や、学習への参加意欲を高める工夫が求められる。
- ・生徒が主体的に探究を深められるよう、テーマ設定や活動のサポート体制を強化する。
- ・商業科の専門性を生かし、基礎知識の定着と実務的なスキルの習得を両立させる学習活動を充実させる。

5 その他、要望等

特になし。

令和7年度

分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 福祉科

1 本年度の重点目標

- (1) 福祉の基礎学力の定着と、実践を意識した学びの充実
 (2) 福祉社会で求められる豊かな人間性と職業人として必要な適応能力や実践力の育成
 (3) 介護福祉士の受験資格取得と進路実現に対応できる能力の育成

2 目標達成のための具体的方策

- (1) 福祉の基礎学力の定着と、実践を意識した学びの充実
 ①福祉教科と日常生活を結びつけ、日々の学習を行う。
 ②授業ノート・課題プリント・実習記録等の提出を徹底させ、「書く力」と「伝える力」、「自ら学ぶ力」を育成する。
 (2) 福祉社会で求められる豊かな人間性と職業人として必要な適応能力や実践力の育成
 ①ボランティアや施設実習等の経験を通し、職業人に求められる倫理観を身につけさせる。
 ②社会に貢献する意識、優しさや思いやりの心を育ませる。
 (3) 介護福祉士の受験資格取得と進路実現に対応できる能力の育成
 ①ボランティアや施設実習を通して、福祉の現場との連携を強化し就職活動に結びつける。
 ②2、3年生を対象とした模擬試験の実施、添削指導を強化し、さらなる知識・技術の定着を図る。

3 今年度の取組における成果と課題

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

| 取組と成果 | 評価 |
|---|----|
| (1) 丁寧に正しくに書くことや、学び・気づきを文章化することを苦手とする生徒に対しては「実習記録」の下書き指導をし、その上で施設に提出することにより、指導の充実を図ることができた。しかし、定着には至らない生徒もいるため、基礎学力や理解力に応じた指導を今後も継続する必要がある。 | B |
| (2) 実習施設や地域のボランティア活動に参加し、利用者様や児童など地域に暮らすさまざまな人とふれあうことができた。 | A |
| (3) 介護福祉士の受験資格取得に向けて、補習を継続して実施し必要な知識・技術を身につけさせることができた。施設実習を経験したことで、地域の福祉施設への就職を希望する生徒がおり、スムーズな就職活動に繋がった。 | A |

4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

福祉科希望者を増加させるための取組

5 その他、要望等